

---

# 遊戯王X D E

ドラゴン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王XDE

### 【Nコード】

N2183Z

### 【作者名】

ドラゴン

### 【あらすじ】

「貴様にこの力が使いこなせるか」その声が全ての始まりだった。ひよんなことから「・NO・」を集めることになってしまった主人公は仲間と協力しながら「・NO・」集めていく。

## プロローグ（前書き）

初投稿です。ですが自分は、文才の才能がないので下手な文かもしれませんがよかったですら見てください。

## プロローグ

### プロローグ

突如、学校の放課後を告げるチャイムが鳴り響いた。

龍驒「さあーて学校も終わったことだし早く帰ってデュエルやろうぜ」

優「はいはいわかりました。どうせいつもの場所に集合でしょ」

龍驒「わかってんじゃん」

いつもの場所と言うのは、駅前の広場にあるデュエルスペースである。

龍驒「ほんじゃーはよこいよ」

優「はいはい」

――駅前広場――

龍驒「おしゃー今日は誰とデュエルしようかな」

優「ほどほどにしろよ」

龍驒「でも最近なかなか皆デュエルしてくれないんだよな」

優「当たり前だこころじゃお前は、滅茶苦茶強いんだからよっぽどの覚悟がないとデュエルはしないだろ」

その時、広場中に男の声が響き渡った。

？「あああああああ」

龍驒「なんだ向こうの方からだ行ってみよう」

優「まてそんなに急ぐな」

声の聞こえたほうに走っていくと男が倒れていた。

龍驒「一体何が」

## プロローグ（後書き）

どうでしたか。デュエルまで持ち込めませんでしたでしたが次回持ち込みますので、よろしくお願ひします。

## キャラ紹介(前書き)

今回は、プロローグに出てきた龍驒と優の説明についてかこうと思います。

## キャラ紹介

キャラ紹介

主人公

桂木 龍驒 かつらぎ りょうた

デッキ：星座デッキ

この話の主人公でありとても明るく誰とでも友達となれる性格です。黄道十二星座がモチーフになったデッキ、星座デッキを使う。

ここらではなのしれたデュエリストでその実力はプロ級である。

ひよんなことから「-NO-」を手に入れてしまい「-NO-」をかけた戦いに参加することになる。

使用する「-NO-」は、「NO-16時間龍タイム・オーバー・ドラゴン」

楠 優 くすのき ゆう

デッキ：ガイアデッキ

龍驒とは幼なじみでよくデュエルをしている。

地属性を主体としたデッキでそのデッキの力は不特定

龍驒と一緒にデュエルをしているうちに龍驒には、及ばないがその実力はプロ級である。

## キャラ紹介（後書き）

なんか説明が短くなりましたがこれでわかったたでしょうか。わからなかったらすいません。

## 第1話 決闘（前書き）

がんばって書きますのでよかったらみてください。

## 第1話 決闘

声の聞こえた方についてみると男が倒れたいた。

龍驒「一体何が」

？「この男対したことがなかったな、だが「・NO・」はいただいていくぞ」

その男が何かのカードを倒れている男からとっていく。

？「さてミツシヨンも終わったことだし帰るか」

龍驒「待て、その人に何をした」

？「おまえが知ってどうする、てかおまえだれだ」

龍驒「俺は、桂木 龍驒」

優「何おまえは名乗ってんだよ」

龍驒「うるせえ優、そういうおまえこそ誰だよ」

？「名乗るものでもないじゃあなあ」

龍驒「待てデュエルだ俺が勝ったら全て教える」

？「ああん、なんだよその眼はむかつかないなあ、いいぞやってやろうじゃねえか」

龍驒「そうこなくちゃ」

優「さて、龍驒冷静になれそいつとデュエルしたらどうなるかわかんねえぞ」

龍驒「そんなことわかってるだがこいつと戦いてえんだ」

優「わかったよ。おまえは自分で言い出したことは、じつこつするやつだからなあ。絶対勝てよ」

龍驒「まかせとけ」

？「準備はいいか始めるぞ」

龍驒・？「決闘 デュエル」

## 第1話 決闘（後書き）

やっとデュエルが始まります次はやっとデュエルです。

## 第2話 混戦（前書き）

やっとデュエルが始まりました。

## 第2話 混戦

龍驒「？」「決闘 デュエル」

龍驒「俺の先攻ドロ」

俺は、モンスターをセット

カードを二枚伏せてターンエンド」

？「俺のターンドロ」

俺はファントム・ビーストを召喚

バトルフェイズ ファントム・ビーストでセットモンスターを  
攻撃」

龍驒「セットモンスターは十二星座 バルゴ

このカードが破壊されたときデッキから十二星座と名のついで  
たモンスター

1体を手札に加える事ができる

この効果でデッキから十二星座 キャンサーを手札に加える」  
？「その程度かカードを2枚伏せてターンエンド」

龍驒 手札4枚

場 伏せカード2枚

？ 手札3枚

場 ファントム・ビースト

伏せカード2枚

龍驒「なんだと俺のターンドロ」

十二星座 キャンサーを召喚

バトルフェイズ 十二星座 キャンサーでファントム・ビーストに攻撃」

十二星座 キャンサー 1600VSファントム・ビースト 1400

？ライフ4000 3800

龍驒「十二星座 キャンサーは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃

できる

「キャンサーで二回目攻撃プレイヤーにダイレクトアタック」  
優「よし、この攻撃が通れば大ダメージだ」

## 第2話 混戦（後書き）

なんか中途半端な場所でおわったしまいました

第3話 ・ N O ・ (前書き)

今回やっと ・ N O ・ が登場します

### 第3話 - NO .

龍驒「キャンサーダイレクトアタック」

?「そう、うまくいくとおもふなよ 畏カード オープンディメンシオンウォールこの効果でおまえがダメージを受けてもらう」

龍驒ライフ4000 2400

龍驒「この位のダメージぐらい平気だ ターンエンド」

?「そろそろ本気をだすか俺のターンドロワー ファントム・スライムを召喚」

効果発動1ターンに1度デッキから同名カードを特殊召喚できる こいファントム・スライム」

優「同じレベルのモンスターが2体来るのか」

?「いくぜレベル3のファントム・スライム2体をオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築 エクシース召喚」

来いNO . - 10百銃王 ガトリングビースト」

龍驒「-NO . なんだあのカード」

?「百銃王 ガトリングビーストの効果発動 このカードのエクシース素材を一つ 取り除き相手フィールドのカードと相手の墓地のカードの数×100ダメージを 与える つまり400ポイントのダメージを与える」

龍驒ライフ2400 2000

?「バトルフェイズ 百銃王ガトリングビーストでキャンサーに攻撃」

龍驒「畏カードオープン ハーフスター」

第3話 - NO・(後書き)

終わらない

## 第4話 力（前書き）

なんか全然話が進みません

## 第4話 力

龍驒「畏カードオープン ハーフスター このカードは相手モンスター攻撃時発動

相手モンスターの攻撃力を半分にする」

NO・16百銃王 ガトリングビースト 1000VS十二星座  
キャンサー 1600

?ライフ3800 3200

龍驒「よしこれで・NOを倒したぜ案外楽勝」

?「勝手に喜んでろ」

龍驒「何いってんだお前のエースモンスターが破壊せれたんだぞ」

?「そう見えるならそれでいい」

龍驒「ええ」

奴の場を見るとそこには倒したはずの・NOが

龍驒「おいどういことだよそのモンスターは、倒したはずじゃ」

?「あまい・NOは、NOと名のついたモンスターじゃなければ破壊できない」

龍驒「チート効果も対外にしる」

?「まあいいコレでターンエンドだ」

龍驒「俺のターンドロワー モンスターをセット キャンサーを守備表示へ変更 カードを一枚伏せてターンエンド」

?「何も出来ぬようだ俺のターンドロワー この勝負俺の勝ちだ手札から魔法カードファントムチェンジ発動

この効果により相手モンスターの表示形式を全て変更する。

さらに百銃王 ガトリングビーストの効果発動

エクシース素材を取り除き相手のフィールドと相手の墓地のカードの数×100ポイントのダメージを与える」

龍驒ライフ2000 1600

?「それではバトルフェイズガトリングビーストで十二星座 カプ

リコンへ攻撃 ラストガトリング」

龍驒「畏カードオープン 電熱波 手札を任意の数捨てて捨てた枚数かける100ポイント攻撃力をアップする」

十二星座カプリコン100 500

百銃王 ガトリングビースト 2000VS十二星座 カプリコン  
500

龍驒ライフ1600 100

龍驒「このときカプリコンの効果によりデッキから十二星座 ジェミニを手札に」

?「命拾いしたなカードを一枚伏せてターンエンド」

龍驒「ここまでなのか」

??「貴様にこの力が使いこなせるか」

龍驒「誰だ」

そのとき俺の中に何かが入ってきた気がした

龍驒「俺のターンドロ 十二星座ジェミニを召喚 ジェミニの能力でデッキからレベル4光属性モンスターを特殊召喚できる こい十二星座タウロス」

??「さあ私を呼べ」

龍驒「なんだエクストラがこのカードは、-NO何でもいまはこれしかねえ

レベル4のジェミニとタウロスでオーバレイ 二体のモンスターでオーバレイネットワークを構築エクシーズ召喚 出でよ  
NO-16 時間龍タイムオーバードラゴン」

?「何-NOだと」

龍驒「コレが俺の力いくぞタイムオーバードラゴンの効果発動」

## 第4話 力（後書き）

なんか疲れました。

今回やっと龍驤の・NOを出せました。

## 第5話 - NO・実力

龍驒「タイムオーバードラゴン効果発動 このカードのエクシーズ素材一つ取り除きこのカードと相手フィールドのすべてのモンスターをゲームから除外する」

？「なに」

龍驒「そしてカードを一枚伏せてターンエンド」

？「少しお前をあまく見すぎたようだ改めて名前は」

龍驒「桂木 龍驒」

蓮「俺は林道 蓮 俺のターンドロワー ターンエンド」

龍驒「俺のターンドロワー この瞬間タイムオーバードラゴンの効果で除外したモンスターをフィールドに戻す リバースカードオープン 再度能力 能力により墓地のモンスター1体の効果を得る 俺は星座使い アンドロメダの効果を得る 墓地罨カード怒りの賞効果発動 このカードを除外し自分フィールド上のモンスターの攻撃力に守備力を加える 十二星座 サジタリウスを召喚 アンドロメダの効果を得たタイムオーバードラゴンの効果発動 自分フィールド上の星座とのついたモンスターの攻撃力分アップし相手のカード効果をこのターン受けない」

時間龍 タイムオーバードラゴン 2500 4500 6000

蓮「攻撃力6000」

龍驒「これでとどめだ時間龍タイムオーバードラゴンで百銃王 ガトリングビーストに攻撃 タイムゲート」

蓮「くそーー」

蓮ライフ38000

優「龍驒のやつ勝ちやがった」

龍驒「よっしゃー」

その時、俺のエクストラが光った

龍驒「このカードは」

そこには、NO-10百銃王 ガトリンググビーストがあつた

龍驒「何故俺のエクストラに、ガトリンググビーストが」

蓮「その理由は、NOをデュエル中使いもし相手がNOを持っていて負ければそのカードは奪われる

そしてNOが0になつた時点でその者は消える」

龍驒「そんな じゃあ何でお前は消えてないんだよ」

蓮「それは、俺がまだNOを持っているからだ」

そう言うと蓮は、エクストラからカードを取り出した

蓮「NO-23 空間龍 スペースオーバードラゴンこれが俺の

NO」

龍驒「それじゃあさっきの男は？」

蓮「やはりマダ持つてやがったかNOを

ミツシヨン失敗かそれじゃあな龍驒次は負けないからな」

そついうと蓮は、姿を消していた。

龍驒「林道 蓮かあ 強い相手だったな」

それよりあの時の声なんだつたんだろう

優「龍驒帰るぞ 今日はいろいろありすぎて疲れた」

龍驒「おう」

そつして俺たちは、家に帰つた。

――次の日――

龍驒「どういうことだよ」

そこには、倒れた家族

龍驒「母さん 父さん 秀どうなつてんだよ」

ふと周りを見るとカードが1枚落ちていた。

龍驒「NO-50 ハーフエンドルーラーなんでこんなカードが」

父さん「りよ・・・う・だ」

龍驒「父さん！」

父さん「そのカードを持って早く逃げろ」

龍驒「父さんどういうことだよ」

父さん「奴らが来る前に早く」

という父さんは、俺を外へ追い出した

龍驤「どういことだよ」

父さん「早くいけ」

そついわれて事の重大さにきずいた俺は夢中で走った。

第5話 - NO・実力（後書き）

なんかシリアスな展開になりました。

## 第6話 希望と絶望（前書き）

今回は、父さんサイドの視点があります。  
ちなみに父親の名前は、桂木 真です。

## 第6話 希望と絶望

桂木 真 目線

龍驒が出て行ってすぐのこと

真「やっと龍驒の奴いったかさてと早いところいつらを倒さないと

ちなみに聞くがお前らは誰だ」

?「……………」

真「答えるわけないかそれじゃあコレでデュエルをつけようか」

?「……………」

そうすると相手もデュエルディスクを出した

真・?「決闘 デュエル」

――10分後――

真「ざつとこんなものか」

そこにはさっきの奴らが倒れている。

真「大丈夫だったか秀 母さん」

母さん・秀「大丈夫」

真「あとは龍驒が上手くやれば」

桂木 龍驒 目線

龍驒「どういうことだったんだ」

そっぴいなから走っていると。

?「龍驒……」

優「どうしたんだよ」

そこには優がいた。

龍驒「優なんでお前がここにいるんだよ」

優「なんかむな騒ぎがしてそれより龍驒こそ何をやっているんだよ」

龍驒「それが」

――事情説明中――

優「そんな事があつたんだ　でそのカードていつのは？」

龍驒「このカードなんだけど」

そういつて俺は優にカードを渡した

優「んん」

龍驒「どうしたんだよ」

優「なんか後ろに紙がついてる」

そついうと優は俺に紙を渡した来た

龍驒「これはどういふことだ」

## 第6話 希望と絶望（後書き）

自分もこの先の展開を考えていません ヘルプ

## 第7話 陰謀

龍驒「どういうことだ」

その紙に書かれていたことは、「・NOを全て集めて来いそうすれば世界は救われる」

龍驒「なんだよこの文意味が分からない」

俺は優にその紙を渡すと

優「まあ・NOを集めろってことでしょ」

龍驒「まあ確かにそうだけど」

その時、謎の男が俺たちの前に現れた

？「貴様か蓮を倒したというのは」

龍驒「だれだ」

？「俺は・NOを集めるものそして貴様を倒しに来た」

そういうとその男はデュエルディスクを出してきた

？「デュエルだ龍驒」

龍驒「やってやろうじゃないか」

優「まあ龍驒ここは俺にやらせる」

龍驒「何いってんだよお前・NOを回収するんだぞ俺がやらなくてどうする」

優「それなら大丈夫だ」

そういうと優はエクストラからカードを取り出した。

龍驒「そのカードは、・NO何でお前が」

優「ちよつとなと言うわけだ別に俺でもいいだろ」

？「構わないいずれにしろどちらも倒すのだから」

優「とりあえず聞いておく名前は」

？「名前を聞きたいなら自分から名乗るのが筋だろ」

優「楠 優だ」

翔太「久上院 翔太 それじゃあ始めようか」

始まるお互いの命と・NOをかけた戦いが

優・翔太「決闘 デュエル」

## 第7話 陰謀（後書き）

まさかの優も・NOの使い手でした次回は、キャラ紹介といきたいです。

## キャラ紹介2 (前書き)

今回は、敵と出てきた・NOについて書きたいと思います。

## キャラ紹介2

### キャラ紹介

林道 蓮 りんどう れん 年齢15

デッキ：ファントムデッキ

この話のライバル的な存在の敵です。

その実力は、プロ以上の実力を持つ。

龍驤に負けたことにより、NOを一枚失うものの自分の使う本当の

- NOをまだ持っていた。

幻影・混沌などを主体としたデッキ。

久上院 翔太 くじょういん しょうた 年齢15

デッキ：サイクロンデッキ

- NOを集めている少年林道 蓮とわ何らかのつながりがあるようだがいま不明

風属性を主体としたデッキを使っている。

### 登場した - NO

NO - 16 時間龍 タイムオーバードラゴン 光

ドラゴン族 ランク4 ATK/2500 DEF/2000

レベル4モンスター×2

このカードのエクシーズ素材を取り除きこのカードと全ての相手モンスターをゲームから除外する。

そのモンスターは、次の自分のスタンバイフェイズにフィールドに戻す。

その時このカードのエクシーズ素材が残っていた場合そのカードの墓地からこのカードの下におく。

NO - 10 百銃王 ガトリンググビースト 光

獣族 ランク3 ATK/2000 DEF/3000

レベル3モンスター×2

1ターンに1度このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き発動。  
相手のフィールド上のカードと相手の墓地のカードの数×100ポ  
イントのダメージを与える。

## 第8話 決闘2（前書き）

今回もPSPからの投稿なので短いです。

## 第8話 決闘2

優・翔太「決闘 デュエル」

優「俺の先攻ドロー 地獣グランを召喚 地獣グランの効果発動

効果により手札のカードを1枚魔法・罨ゾーンにセットする

さらにカードを1枚伏せてターンエンド」

翔太「俺のターンドロー サイクロンレーターを召喚

バトルフェイズサイクロンレーターで地獣グランに攻撃」

サイクロンレーター 1600VS地獣グラン 1500

優ライフ4000 3800

優「地獣グランの効果発動このカードが破壊されたときフィールドの魔法・罨ゾーンにあるカードを1枚破壊する このカードの効果で俺のフィールド場の伏せカードを破壊する 破壊されたカード地獣フォースの効果でセットされたこのカードが破壊された時、特殊召喚できる 来い地獣フォース」

翔太「なに！いつの間になんなカードを第一モンスターを魔法・罨ゾーンに伏せるなんてできるわけがない」

優「それができるんだよ。いやできたんだよこのカードを使えば」  
そう言うとなんか、地獣グランを見せてきた。

翔太「そう言えばあの時 まあいいカードを1枚伏せてターンエンド」

第8話 決闘2（後書き）

優 ライフ3800 手札3枚

場 地獣フォース 伏せカード1枚

翔太 ライフ4000 手札4枚

場 サイクロンレーター 伏せカード1枚

## 第9話 - NO

翔太「そう言えばあの時、まあいいカードを1枚伏せてターンエンド」

龍驤「優の奴あんな戦術もできたのかよ！」

優「俺のターンドロ、掘削員Aを召喚、掘削員Aの効果発動このカードの召喚時、自分フィールドにこのカード以外の 地属性が存在する場合デッキから、掘削員Bを特殊召喚できる。現れる、掘削員B」

龍驤「同じレベルのモンスターが2体やるのか優！」

優「俺は、レベル4の掘削員AとBをオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築」

エクシーズ召喚 現れよ、地底龍ガイアドラグリーン」

翔太「なに・NOじゃない。何故・NOを出さない」

優「まあそうあわてるな、次期に・NOは、出すから」

バトルフェイズ 地底龍ガイアドラグリーンでサイクロンレーターを攻撃」

翔太「あまい、罨カードオープン 大突風」

効果により攻撃してきたモンスターを手札に戻す。」

優「そうはさせない、地底龍ガイアドラグーンの効果発動」

効果によりこのカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、このカードを裏側守備表示変更する」

翔太「ちい逃げられたか」

優「カードを一枚伏せてターンエンド」

龍驤「あのモンスターあんな効果があったんだ」

翔太「調子に乗るなよ、俺のターンドロ、サイクロンレーターを召喚」

いくぜレベル3のサイクロンレーター2体でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築」

エクシーズ召喚 いでよ、NO-34新風鳥 月花」

優「出てきたか-NO」

翔太「新風鳥 月花の効果発動

このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、フィールド場のカードを2枚まで破壊又は手札に戻す

この効果で伏せカード2枚を破壊する。サイクロンフェニックス

まだまだ、バトルフェイズ新風鳥 月花でセットモンスターに攻撃」

NO-34新風鳥 月花 2700VS地底龍ガイアドラグーン  
2400

優「地底龍ガイアドラグーンの効果発動、このカードは、裏側守備表示で攻撃された時このカードは、破壊されない」

翔太「ちい、命拾いしたな。まあ次のターン破壊すればいいこと、カードを2枚伏せてターンエンド」

優 ライフ3800 手札2枚

場 地獣フォース 地底龍ガイアドラグーン

翔太 ライフ4000 手札2枚

場 NO-34新風鳥 月花 伏せカード2枚

優「お前にもう次のターンは、こない俺のターンでこのデュエルは、終了だ」

第9話 - NO (後書き)

段々と優のキャラが崩れてきました。

## 第10話 波乱(前書き)

今回もPSPからの投稿なので文が短いのでそこそこは了承してください。

## 第10話 波乱

優「お前にもう次のターンは、こない俺のターンでこのデュエルは、終了だ」

翔太「お前は、何を言っているんだ俺のライフは、まだ4000あるんだぞ」

龍驒「そうだぞ優、しかもお前の手札は2枚しかないんだぞ」

優「大丈夫だ、俺のターンドロ、地獣チエンジャーを召喚、さらに魔法カード発動、地底探索、効果によりデッキから地獣と名のついたモンスターの攻撃力を0にして特殊召喚する。現れる 地獣チエンジャーを守備表示で特殊召喚。さらに2体の地獣チエンジャーの効果発動

効果によりこのカードのレベルを二つあげる。よって2体の地獣チエンジャーのレベルを6にする」

翔太「レベル6のモンスターが3体まさか」

優「そのまさかだよ。俺はレベル6の地獣フォースと地獣チエンジャー2体でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚、いでよ、NO.73地底神 グランドエンド」

翔太「ついにおでましか・NO.」

優「地底神 グランエンドの効果発動」

## 第11話 決着

優「地底神 グランエンドの効果発動

このカードのエクシーズ素材を、1つ取り除き相手フィールドの全てのモンスターを裏側守備表示に変更する

さらに、このカードが存在する限り、セットカードを発動できない」

翔太「なに!!!」

優「さらに、魔法カード発動 掘削ドリル

効果により、自分フィールドのモンスター全てに貫通効果を与える。

バトルフェイズ、NO・-73地底神 グランエンドでセット  
モンスターに攻撃」

NO・-73地底神 グランエンド 2800（貫通）VSNO・-  
34新風鳥 月花 2400

翔太ライフ4000 3600

優「さらに地底龍ガイアドラゴンでダイレクトアタック」

翔太 3600VS地底龍ガイアドラゴン

翔太ライフ3600 1200

翔太「くそっ、だが俺のライフを全て削れたワケじゃない、次のターンで逆転してやるよ」

優「だから、いっただろ次のお前のターンはない、墓地罫カード発動」

翔太「なにっ!!!墓地罫だと」

優「罫カード、第2陣を墓地から除外その効果により、自分フィールドのモンスター1体を墓地に送り、

自分フィールドのモンスター1体は、このターン2回攻撃が出る。よって、地底龍ガイアドラゴンを墓地に送り

地底神 グランエンドを2回攻撃にする」

翔太「なにっ！！！！」

優「これで終わりです。いけ、NO。 - 73 地底神 グランエンド、ダイレクトアタック ゴッドクエイク」

翔太「うわああああ」

翔太ライフ120000

優「ふう、勝ったかそれじゃあ、お前の・NO・は頂いてくぞ」

翔太「まっしてくれ。俺はまだ消えたくない」

そう言い放つと翔太は、姿を消した。

龍驒「何だよ、この展開は、何で消えなきゃならないんだよ」

優「そうゆう定めだからさ」

龍驒「そんなモン俺がブチ壊してやるよ」

その時、俺のエクストラが光った。

龍驒「なんだよ、この光は」

その光は、徐々に、広がっていき最後には、俺と優をつつみこんだ。

龍驒・優「うあああああああ」

## 第12話 能力(前書き)

今回は、・NO・を集めると、どうなるかについて書きたいと思います。

## 第12話 能力

前回のあらすじ

優VS翔太で優が勝利したそれにより翔太の体は、消滅そのとき龍驒のエクストラが光りその光に龍驒と優が包み込まれた。

龍驒「こ・・・ここは」

そこには、一面なにもない世界が広がっていた。

龍驒「ここは、どこだ。そう言えば優がない。優ーーー 優ーーー  
ーどこだ優」

叫んでみるもそこには、静寂しかない。

?「なんでお前がこんな場所に、まあこれが・NO・の定めか」

龍驒「誰だ!!!」

後ろを振り返ってみるとそこにはいるはずのないやつがいた。

龍驒「なっとなっとな何でお前がいるんだよ。」

そこにいたのは、俺の幼なじみである影山 源がいた。

源「落ち着け龍驒まずは、聞きたいことがある。お前は・NO・を  
持っているのか」

龍驒「ああ持つてるけどそれがどうしたんだ。てか何でお前こそい  
るんだ」

源「そんなことは、あとだ。おまえは、・NO・が何かわかってい  
るのか」

源の言葉に俺は、カチンときた。

龍驒「あああそんなこと知らねえよ。突然デュエル中に手に入れた  
んだから」

源「そうか、それならお前は、知らないみたいだな・NO・をすべ  
て集めると、どうなるのかを」

龍驒「なにが起きるんだよ」

### 第13話 空想世界（前書き）

今回は、龍驒たちがおとずれた世界についてかこうと思います。

### 第13話 空想世界

源「そうか、それならお前は、知らないみたいだな・NO・をすべ  
て集めると、どうなるのかを」

龍驒「なにが起きるんだよ」

源「全ての・NO・を集めると願いが叶えられるんだ」

龍驒「はあ、ちよつとまてよ」

源「だから、願いが叶うんだよ」

龍驒「ちよつと整理させてくれ」

俺は、父さんに・NO・を集めろといわれた。それがこんな理由っ  
てどういうことだよ。

龍驒「よし、大丈夫だ。でも願いを叶えるってなんでそんなことな  
んだよ」

源「俺が知ってるわけないだろ。まあとりあえずこの世界の説明も  
ついでにするか。

この世界は、NO・と名のついたカードを持つものが来られる  
世界だ」

龍驒「もう、ワケが分からないな」

源「大丈夫だ。俺も同じ意見だから。とりあえず向こうの街まで行  
つてみるか」

龍驒「街??」

源「まあついてこい」

そういわれるがままについていくとそこには、でかい街があった。

龍驒「この世界は、なんでもありだな」

その街を見渡した見ると聞き覚えのある声。

優「龍驒ー」

龍驒「優！無事だったのか」

優「なんとかなつてか何でお前が居るんだ源」

源「まあなりゆきと・NO・のせいかなあ」

優「へええー」

源「そういあ言い忘れてたことがあつたんだ。この世界でNO・同士の戦闘で敗れても消滅は、しないんだ」

龍驒・優「えええええー」

源「でもNO・を持たないものは、この世界から追放される。あと

龍驒・優、俺と一緒に・NO・を集めてくれ」

龍驒「なんかいきなりとうとつだな」

源「頼む、お前だから頼むんだよ」

優「でも、最後には、1人しかもてないんだぜ」

源「その時は、その時だ」

龍驒「まあいいけど。優もどうせいいだろ」

優「まああ」

源「よし、それじゃあ・NO・を全て集めるぞー」

龍驒・優「おおおおー」

こうして俺と優と源で・NO・をあつめることになった。

？「ずに、のるなよ。クソガキども。貴様らが集められるわけない。集めるのは、俺たちだ。」

## 第14話 決闘開始

前回まであらずじ

俺と優は、空想世界に飛ばされてそこで源と再開。

その世界は、NO.を持つものしか入れない世界

龍驤「・・・んん・・・」

カーテンの隙間から太陽の光が入ってきた。

龍驤「もう朝か。俺は、いつの間に眠りについたんだ。

まあ覚えてるわけないけどな。あんなことがあったんだからなあ」

あんなことと言うのは、空想世界の話である。

龍驤「とりあえずいつもの場所に行くか」

「――駅前広場――」

優「龍驤、来たか」

龍驤「来たかって何だよ」

優「いくぞあそこへ」

龍驤「行くぞって何所へだよ？」

優「そんなもん決まってるだろ。」

龍驤「まさか!?!」

優「そのまさかだよ。ほらいくぞ」

龍驤「お・・・おう」

そついうと優は、NO.を取り出した。

龍驤「何をやってんだよ？」

優「ああ聞いてなかったのか。コレが空想世界に行くゲートなんだよ」

龍驤「へえーそうなんだ」

優「いくぞ」

龍驒「おう」

そういうと俺と優は、光に包まれていった。

――空想世界――

龍驒「はぁーやっとなつた」

優「結構長かったなあ」

そんな会話をしていると俺らを呼ぶ声が出た。

源「龍驒ー優ー」

龍驒「でけえ声出すんじゃネエよ。はずかしい」

源「すまない、でも早く集めネエと」

そういうと源は、俺のほうに必要以上によつてきた。

龍驒「分かったから顔を近づけるのをやめろ」

源「ほんとかあでどうする」

そういつているとある一人の少年が声をかけてきた。

？「あの龍驒さんですよなあ」

龍驒「ああそうだけどもきみは？」

優希「自分は、優希って言います。よろしくお願いします」

龍驒「おうよろしくな」

へえーこんな時代に珍しいなこの子は。

優希「早速ですが自分とデュエルしてください。蓮さんを倒した実

力が本物が自分で確かめていんです」

龍驒「おしやるうぜ」

優「（心の声）蓮ということは、なんかありそうだけど大丈夫だろ」

龍驒「いくぞ優希」

優希「いつでもどうぞ」

（心の声）これで俺の元にNO.16が手に入る」

カチャ

龍驒「なんか音がした気がするけど気のせいかな。いくぞ」

龍驒・優希「決闘 デュエル」

このデュエルが今後の俺たちのデュエルを左右することになるとは、  
まだだれも知らない

## 第14話 決闘開始（後書き）

デュエルが開始されました。

優希が何かを隠しているのは、明白ですよね。

ちなみに、影山 源の名前の読み方は、”かげやま みなと”なの  
で”かげやま げん”では、ありません。

第15話 決闘3 (前書き)

今回は、デュエルの前半戦です。

## 第15話 決闘3

龍驒・優希「決闘 デュエル」

龍驒「いくぜ、俺の先攻ドロ」

俺はモンスターをセット、カードを1枚伏せてターンエンド」

優希「いきます、僕のターンドロ」

僕は指揮官ジャッジを特殊召喚。このカードは、相手フィールド上にモンスターが存在し自分フィールドにモンスターが存在しない時、特殊召喚できる。さらに奴隷スレイブを召喚。バトルフェイズ 指揮官ジャッジでセットモンスターを攻撃」

龍驒「セットモンスターは、十二星座タウロスこのカードは破壊された時、デッキから十二星座と名のついたレベル4以下のモンスターを手札に加える。デッキから十二星座ジェミニを手札に加える」

優希「まだだ、奴隷スレイブでダイレクトアタック」

奴隷スレイブ 400VS龍驒

龍驒ライフ4000 3600

優希「カードを2枚伏せてターンエンド」

龍驒「エンドフェイズ時、畏カードオープン星座創世 自分のデッキからレベル2以下の星座と名のついたモンスターを特殊召喚する。よって現れよ、十二星座アクエリヌス」

龍驒ライフ3600 手札5

場 十二星座アクエルヌス

優希ライフ4000 手札2

場 指揮官ジャッジ 奴隷スレイブ 伏せカード2枚

龍驒「俺のターンドロ」

星座の使者シグニを召喚効果発動 デッキの上からカードを5枚墓地に送る。その後墓地の魔法カード1枚を手札に加える。よ

つて墓地からハンドグレイブサモンを手札に。そして魔法カードハンドグレイブサモン発動

手札と墓地からレベル4以下にモンスターを攻撃力を0にして特殊召喚。

現れる十二星座ピスケス、十二星座サジタリウス

源「すげえー0だったフィールドが一気に4体のモンスターを並べた」

龍驒「さらに十二星座アケリヌスの効果、フィールド上の効果モンスター1体を1ターンに1度手札に戻す。よって指揮官ジャッジには、退場してもらおう」

優希「くそお!!!」

龍驒「まだまだ、十二星座ピスケスの効果発動 このカードと自分フィールドの光属性モンスターのレベルを1〜5までに変交できる。効果のよりピスケスとサジタリウスのレベルを4にする」

優希「来るかNO. - 16!」

龍驒「俺は、レベル4となった十二星座ピスケスとサジタリウスをオーバーレイ 2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚 現れるNO. - 16 時間龍 タイムオーバードラゴン」

優希「くつくく、ついに来たかNO. - 16俺は、そのカードをもらうためにお前とデュエルしたんだよ。

ちなみにこのデュエルの敗者は、消滅する」

龍驒「なんだってそんなバカな」

優希「ほんとなんだよ。我々の力を使えばこの世界でも消滅させることは、たやすい」

龍驒「そんなまた、人が消えるのかよ」

優希「安心しろ消えるのは、お前だからな。ちなみに・NO.をいくら持つてようと意味は、この世界ではないなぜならこの世界の・NO.を賭けるデュエルは、全ての・NO.をかけているからなあ。まあせいぜい全ての力を出し切るといい」

龍驒「また、この命がけのゲームかよ。もうこんなうんざりなんだよ」

その時、時間龍タイムオーバードラゴンのカードが光った。  
？「貴様にこの力が使いこなせるのか」

龍驒「こ・こ・こは」

そこには、謎の石造があつた。

龍驒「こ・こは、何所だよ」

## 第15話 決闘3（後書き）

龍驒がたどり着いた場所は一体何なんでしょう。

なんか展開がゼアルにちよっと似てますがそこんところは、考え付  
かなかつたんです許してください。

## 第16話 新たな力

龍驒「ここは何処だよ」

そこには、謎の石像が三つとその上には赤、青、黄の玉がおいであつた。

？「また貴様かまあいい」

龍驒「だれだ!!!」

そこには誰もいなかった。だがその声は確かにした。

？「貴様は何を欲する」

龍驒「何の話だ!!!」

？「何を欲する。力が欲しければ赤を、戦術がほしければ青を、光が欲しければ黄を、さあ、どれかを選ぶがよい」

龍驒「何の話をしているんだ」

？「さあ、選べそうすれば道は開ける」

龍驒「道は開けるかあ……俺が欲しいのは、誰も傷つけずに、仲間を守るそんな力だ」

？「貴様、面白いやつだ、いいだろ。その力、我が与えてやろう」

龍驒「なんだよ。うああああ」

また、俺は光に包み込まれた。

？「龍驒!!! 龍驒!!!」

なんだ、俺を呼ぶ声がする。

龍驒「な……なんだ俺を呼ぶの誰だ」

？「龍驒!!!」

はっ!!!俺はやつと意識が戻った。

優「龍驒やつと意識が戻ったか」

龍驒「俺は何をしてんだ」

優「お前は、なんか・NO・召喚したと、思ったら急に動かなくなつたんだ」

優希「さあ早くターンを進めろ」

龍驒「おおう、バトルフェイズ？」

その時、俺は直感で何かを感じた。

第16話 新たな力（後書き）

龍驒は何かを手に入れたようです。

## キャラ紹介3 (前書き)

今回は、影山 源と神事 優希のキャラ設定を書きたいと思います。

### キャラ紹介3

#### キャラ紹介

影山 源 かげやま みなと 年齢15

デッキ：ダークネスデッキ

龍驒と優とは幼なじみで10歳の時に転校してしまい龍驒たちとは離ればなれになる。龍驒たちとは、空想世界で再会する。

使用するデッキは、闇を主体としたデッキでそのモンスターのほとんどが闇のカードである。デュエルの実力は、龍驒と同じくらいである。

使用する・NO・はNO・-89大魔王 アモン帝王

神事 優希 しんじ ゆうき 年齢13

デッキ：ジャッジデッキ

空想世界であった謎の少年。翔太と蓮とは、何らかの関係があるようだ。だがその関係は不明である。

使用するデッキは裁判を元ネタとしたデッキでレベル5のモンスターを特殊召喚する事にとっかしたデッキである。

使用する・NO・はNO・-13ジャッジメントルーラー

## 第17話 覚醒

龍驒「おおう、バトルフェイズ？」

その時、俺は直感で何かを感じた。

龍驒「メインフェイズ2 アクエリヌスを守備表示に変更カードを2枚伏せてターンエンド」

優「龍驒何をやってるんだよ」

優希「ちい俺のターンドロ」

奴隷スレイブをリリース、アドバンス召喚 神官キング、神官キングの効果発動 このカードの召喚時、手札のレベル5のモンスターを特殊召喚できる。現れる 指揮官ジャッジ

龍驒「レベル5のモンスターが2体来るか！」

優希「俺は、レベル5の神官キングと指揮官ジャッジをオーバーレイ 2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築 エクシーズ召喚、来いNO・-13ジャッジメントルーラー」

龍驒「きやがったか-NO・-！」

優希「さらに、魔法カード発動 審判、効果により手札のレベル5のモンスター1体を守備表示で特殊召喚する。いでよ罪人ヘルド。さらにジャッジメントルーラーの効果発動 このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、自分フィールドのモンスター1体を選択した発動、選択したモンスターの攻撃分、相手の全てのモンスターの攻撃力をダウンさせる。よって罪人ヘルドの攻撃力は、2000よって、お前のモンスターの攻撃力は、2000ポイントダウン」

NO・-16時間龍 タイムオーバードラゴン 2500 500

優希「さすがの-NO・でも手も足も出まい」

龍驒「いいから来いよ。ぶっ潰してやるから」

源「なんか龍驒のキャラ変わってねえか」

優「それは、ちょっと思う」

優希「行ってやるうじゃねえかあ。バトルフェイズNO・-13ジ

ヤッジメントルーラーでNO・-16時間龍 タイムオーバードラゴンに攻撃 ジャッジメントエンド」

龍驍「畏カードオープン 反撃前の演技 効果によりこのターン相手モンスターの攻撃は全て俺へのダイレクトアタックとなる」

龍驍 V S N O ・ - 1 3 ジャッジメントルーラー 2 6 0 0

龍驍ライフ3600 1000

優希「自分からダメージをくらいにいった」

龍驍「まだまだ、反撃前の演技の効果は、このターン受けたダメージの合計攻撃力以下のモンスターをデッキから特殊召喚できる。よって十二星座レオを特殊召喚」

優希「ターンエンド」

龍驍ライフ1000 手札2

場 星座の使者シグニ 十二星座アクエルヌス NO・-16時間

龍 タイムオーバードラゴン 十二星座レオ 伏せカード1枚

優希ライフ4000 手札0

場 NO・-13ジャッジメントルーラー 罪人ヘルド 伏せカード2枚

龍驍「俺のターンドロ」

十二星座アクエルヌスの効果発動、効果によりジャッジメントルーラーを手札に」

優希「そうはさせるか畏カード エクシーズブロック エクシーズモンスターを対象とする効果が発動した時そのカードを無効にして破壊する」

龍驍「くそお、時間龍 タイムオーバードラゴンの効果発動、このカードのエクシーズ素材をこのカードと全てのあいてモンスターをゲームから除外する。 タイムゲート」

優希「そうはさせるか畏カード発動 判決 効果により自分フィールドのモンスターがフィールドから離れる場合、そのモンスターは

このターンフィールドに残り続ける。これでタイムオーバーだけ除外だ」

龍驒「この時を待っていたんだよ。罨カードオープン エクシーズボンド 効果により、自分フィールドのエクシーズモンスターがフィールドを離れた時、相手エクシーズモンスターのコントローラーをエンドフェイズまで得る。よってNO・13ジャッジメントルーラーは頂いてくぞ」

優希「なにそんなカードが！だが大丈夫だ。俺のモンスターは破壊はおろかフィールドから離れない」

龍驒「確かにフィールドからは、離れない、だがダメージは、適用する。魔法カード発動 トリック表示 効果により相手モンスターの表示形式を変更し効果を無効にする」

優希「なに！！！」

龍驒「さらにNO・13ジャッジメントルーラーの効果発動 このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、自分フィールドのモンスター1体を選択した発動、選択したモンスターの攻撃分、相手の全てのモンスターの攻撃力をダウンさせる。よって、十二星座レオの攻撃力は2600 2600ポイントダウン」

罪人ヘルド 2000 0

龍驒「バトルフェイズ 十二星座レオで罪人ヘルドの攻撃」

優希「うああああ」

優希ライフ4000 1400

龍驒「NO・13ジャッジメントルーラーでダイレクトアタック ジャッジメントエンド」

優希「さて、この勝負に負ければ俺は消える。誰一人失わないんじゃないのか！」

龍驒「うるせえ！誰一人失わねえよ！ とどめだあ」

優希「うああああ！！！」

優希ライフ1400 0

龍驒「ふうー疲れた、それじゃあお前の・NO・は貰ってくぜ」

優希「待つてくれ、俺は、まだ消えたくない」

龍驒「だいじょうぶだ。お前は消えない」

優希「えっ!!」

源「どうなってるんだよ」

いつの間にか優と源が俺の後ろにいた。

龍驒「これが俺の手に入れた力だ」

優「へえーでもいつ手に入れたんだよ？」

龍驒「一瞬この世界だと俺は、動かなくなっただら。その時だ」

源「お前は、何を言ってるんだ」

龍驒「正直いうと俺もわかんねえ。それはさておき優希、今度向この世界で俺とデュエルしようぜ。こんな命がけのデュエルじゃなくって」

優希「お前・・・おう」

そういつていくと優希は、姿を消した。

龍驒「さてー今日は疲れた帰るか、っていったって俺帰る場所ないんだ」

源「それっだったら家にこいよ。お前なら大歓迎だぜ」

龍驒「源、お前いいやつだなあ」

こうして今日が終わった。

??目線

?「-NO.がまた奴らに奪われました」

??「まあいい次期に回収する。だがあのカードを所持する前に潰せ」

?「わっかています」

??「それでわさがっていいぞ」

?「はっ!!」

扉が閉まる音が無音に響いた。

??「あのカードだけは、渡しては、いかんNO・・92神龍  
アルティマゴットドラゴンだけは、待っている桂木龍驒とその仲間、  
我々がお前らを葬り去ってやる」

## 第17話 覚醒（後書き）

なんか、敵の大元が出てきました。ちなみにこの組織は、翔太が所属している組織です。

## 第18話 漆黒の・NO・(前書き)

今回は、いまだ1回もデュエルしていない源について書こうと思います。

第18話 漆黒の・NO・

龍驒「ここは？」

なぜか俺は、全く知らない場所にいた。

龍驒「思い出せ昨日何があった。まずデュエルをした、その後源のうちいき寝た。別におかしいところはないよなあ。」

？「また貴様か（あきれた声）」

龍驒「その声はどつかで？」

？「恩人いや力を与えたものの声すら覚えていないのか貴様は（またあきれた声）」

龍驒「あっ思い出した。その説ははとも」

？「やっと思いついたか。それでは、本題に入ろう」

龍驒「本題？その前に質問」

？「なんだ！手短にな」

龍驒「個々は何所ですか？」

？「ここは、わたしの空間だ今のところ貴様しか入れん。わかったか。それでは、本題にうつる」

龍驒「おおう」

？「本題と言うのは、貴様の仲間が持っている。・NO・のことだ」

龍驒「仲間が持っている・NO・について？」

？「そうだ、影山 源やつの持っている・NO・は危険な代物だ。」

そこで龍驒頼みがある。これを源に渡せ」

そういわれると何も無い空間から何かが出てきた。

龍驒「これを源に？」

その物体は、玉のような物だった。

？「わかったかしっかり渡せよ」

そついうと空間がゆがみ始めた。

龍驒「ちよつとまてよ」

だが、もう間にあわなっかた。

龍驒「うああああああ」

「……?……」

?「龍驒!龍驒!」

龍驒「こ・こ・こは」

?「龍驒!!!」

龍驒「いったー!」

何かが俺の頭に直撃した。

源「龍驒目が覚めたか」

龍驒「こは、?」

源「お前寝ぼけてるのか。こは、もう空想世界だぜ」

龍驒「いつの間にかこんなところに来たんだよ」

源「何も覚えてネエのか。まあいい、いま俺たちは、優を待っているんだ」

龍驒「へえー!」

その時、誰かの声があった。

?「すみません、俺とデュエルしてもらえますか」

そこには、小さな小柄な少年が立っていた。

龍驒「別にいいけど」

源「こは、俺にやらせてくれよ。全くやってねえんだから」

龍驒「まあいいけど、相手が了解してくれれば」

真「いいですよ。俺の名前は、楠 真つていいいます」

楠まさか優と関係があるわけじゃないよなあ

源「よろしくな。真それじゃあ早速始めるか」

龍驒「源、ほいよ」

俺は、アイツからもらった謎の玉を源に投げた。

源「何だよ、この玉は?」

龍驒「いいから持っておけ」

なんかこのデュエルやな予感がするんだよなあ。

源「まあいい、いくぞ真」  
真「はい!!」

源・真「決闘 デュエル」

?「始まったか、貴様の實力見せてもらおうか、影山 源はっはっ  
はは」

第19話 挑発（前書き）

今回も源のデュエルです。

## 第19話 挑発

源・真「決闘 デュエル」

真「いきます僕の先攻ドロ」

僕は、クリスタルゴーレムを召喚 効果発動このカードの召喚時、手札のクリスタルと名の付いたレベル4モンスターを特殊召喚できる。現れる、クリスタルエッジ。さらにクリスタルエッジの効果発動 このカードの特殊召喚に成功したとき、デッキからクリスタルリーダーを特殊召喚できる。現れる、クリスタルリーダー。さらにクリスタルリーダーの効果発動 1ターンに1度このカードレベルをクリスタルと名の付いたモンスターと同じレベルにできる。よってクリスタルリーダーのレベルを4にする」

源「レベル4モンスターが3体くるのか - NO .」

真「いきますレベル4のクリスタルゴーレム・エッジ・リーダーの3体をオーバーレイ3体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築」

エクシーズ召喚 来いNO . - 38 凍結のクリスタルマジシャン

龍驤「ついに来たか - NO .」

真「凍結のクリスタルマジシャンの効果発動 このカードのエクシーズ素材を一つ取り除き相手は次のターン魔法カードを発動できない。カードを2枚伏せてターンエンド」

源「その程度か。それじゃ俺のターンでこのデュエルは終わりだな」

## 第19話 挑発（後書き）

まさかの源が自分の初ターンめで最終ターン宣告

実際は、ファイナルターンって書きたいのですがそれだとヴァンガードとかぶるのでやめています。

## 第20話 源の實力

源「その程度か。それじゃ俺のターンでこのデュエルは終わりだな」  
龍驤「源のやつ何いつてるんだよ」

源「いくぜ俺のターンドロ―

手札から罠カード発動 闇神の訪れ」

真「手札から罠カードをなんで」

源「このカードは、自分フィールドに何も無い時手札から発動できる。さらに効果によりデッキから闇属性・悪魔族レベル10以上のモンスターをデッキから2枚墓地に送る。よって暗国王デビラスと死王アヌビスを墓地に送る。」

さらに手札を1枚墓地に送り手札から邪眼の使いを特集召喚」

真「レベル10のモンスターを特殊召喚！」

源「このカードは自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、手札を1枚捨てて特殊召喚できる。ただしこの効果で特殊召喚したこのカードの攻撃力は0になる」

真「ふううよかった」

源「安心するなよ。墓地罠カード デッドコール、このカードをゲームから除外することで自分の墓地の闇属性・悪魔族モンスター1体を攻撃力を0にし効果も無効にして特殊召喚。現れる暗国王デビラス」

龍驤「レベル10のモンスターが2体、源の奴どんなけ強いんだよ」

源「いくぜレベル10の暗国王デビラスと邪眼の使いをオーバーレイ  
イ

2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚 現れる NO・89大魔王 アモン帝王」

真「あれが源さんの・NO・すごい力を感じる」

源「レートガイダーを召喚 効果発動、デッキからレベル4以下の闇属性・悪魔族・守備力0のモンスターを1体特殊召喚できる。現れる デビルマータ

さらに大魔王 アモン帝王の効果発動、自分フィールド上の闇属性・悪魔族のモンスター1体をこのカードの下に置く、その後相手は自分フィールド上のカードを1枚選び破壊する。よってレートガイダーをアモン帝王のエクシズ素材に ヘルブレイク」

真「くそ、俺は伏せカードを破壊する」

源「もう一回同じ効果を使うデビルマータをアモン帝王のエクシズ素材に」

真「もう一枚の伏せカードを破壊する」

源「さらに大魔王 アモン帝王の効果発動 このカードのエクシズ素材を2つ取り除き、デッキから闇属性・悪魔族のモンスターを1体特殊召喚する。現れるダークマター

バトルフェイズ、NO・89大魔王 アモン帝王でNO・38凍結のクリスタルマジシャンに攻撃」

NO・89大魔王 アモン帝王 3800VSNO・38凍結のクリスタルマジシャン 2400

真ライフ4000 2600

真「うああああ くそ」

源「いけ、ダークマターでどどめ」

ダークマター 2800VS楠 真 2600

真ライフ2600 0

真「負けました。やっぱりあなた方は、強いですね、兄があなた方についていくのも分かります」

龍驤「兄って？」

真「きずかないんですか？僕の名前は楠 真ですよ」

源「おまえまさかあいつの弟!!!」

真「はいそうです。ちなみに兄ならまだ寝てると思います。もうそろそろ消える時間なので」

源「真またデュエル向こうでやるうな」

真「はい」

そういつて真は姿を消していった。

源「俺たちも、帰るか今日は、疲れたしそれに明日学校だぜ」

龍驒「学校ってお前俺たちの学校に来るのかよ？」

源「ああそうだけどいつてなかったけ？」

龍驒「行ってねえよそんなこと、まあいつか」

源「そうだった」

？「影山 源か、奴も要注意人物だった、帰って報告をせねばな」

龍驒「んんん？」

源「どうしたんだよ」

龍驒「いまなんかいたような、気のせいだ帰ろっ」

## 第20話 源の実力（後書き）

とりあえず源はものすごく強いですね。

次回は、キャラ紹介と・NO・の紹介といきたいです。

## キャラ紹介4（前書き）

今回は楠 真と・NO・の説明です。

## キャラ紹介4

### キャラ紹介

楠 真 くすのき しん 年齢13

デッキ：クリスタルデッキ

龍驤にいきなり勝負を挑んできた少年、だが源とデュエルし1ターンキルを決められてしまった少年。優とは兄弟で兄である優を慕っている。

デュエルの実力は、まあまあ強い。クリスタルと名の付いたカードを主体としたデッキを使っており、このデッキは昔、優から譲り受けたものである。

使用する - NO. は NO. - 38凍結のクリスタルマジシャン

NO. - 89大魔王 アモン帝王 闇

悪魔族 ランク10 ATK/3800 DEF/0

闇属性レベル10モンスター×2

このカードのエクシーズ素材を二つ取り除き、デッキ・手札・墓地から闇属性・悪魔族モンスター一体をデッキから特殊召喚できる。

この効果は1ターンに1度しか使えない。自分フィールド上の闇属性・悪魔族モンスターをこのカードの下に置く。その後、相手は自分フィールド上のカードを一枚破壊する。このカードはエンドフェイズ時、このカードのエクシーズ素材を一つ取り除く、取り除けない場合このカードを破壊する。

## キャラ紹介4（後書き）

今回はこの前の話でもちょっと言っていた学校の話を行います。

## 第21話 学校生活（前書き）

今回は龍驒たちが通う学校の話をしたいと思います。ちなみに今回やっとヒロインがでてきます。

## 第21話 学校生活

龍驤「はあなんかやる気が起きない。ずっと休みがいいな」

?「龍驤おはよう」と声が聞こえると俺は背中に打撃攻撃がきた。

龍驤「いつーてー原田、手加減しろよ」

美咲「もう一発やってほしいの?」

龍驤「はいすいませんでした。美咲様」

美咲「そこまでいってないでしょこれだと私が言わせたみたいじゃない」

龍驤「いや別に間違いはないと思うが」

美咲「なんですって!」

?「おいおい朝からいちゃつくくなよ」

龍驤・美咲「いちゃついてねえよ!」

龍驤「つて源と優じゃねえかよ」

美咲「優おはようそっちの人も知らないけどおはよう」

優「おうおはよう」

源「どうも」

キーコーンカーコーン

龍驤「やば学校遅刻じゃねえかよ」

俺たちは全速力で走った。絶対間にあわないけど。

結局俺たちは間にあわなかった。

龍驤「美咲が変にこだわるから」

美咲「あんたも悪いでしょ」

優「だからいちゃつくくなよ」

龍驤・美咲「だからいちゃついてねえよ」

先生「それじゃあ席に付け転校生を紹介する入ってこい」

源「影山 源ですよろしくお願いします」

## 第21話 学校生活（後書き）

何か自分でも微妙な展開になってきました。

## 第22話 決闘前

源が転向して来た放課後の話。

龍驒「それじゃあいつもの場所に行くか」

美咲「いつもの場所って？私も連れてってよ」

俺、優、源はものすごく困った。

そして俺らは美咲に「ちよっとまってる」といいひそひそと話しはじめる。

龍驒「どうするんだよ、いつもの場所って空想世界のことだろ」

優「いかにもそうだけど」

源「あの子美咲っていったけ。龍驒の彼女」

龍驒「彼女じゃねえよ」と大きな声を出してしまった。

そうすると美咲が「どうしたの、話終わった？」きいてくる。

龍驒「まだだ、もうちよっと待ってくれ」

ほんとに困った俺たちはどうしようと思っっている時、声がした。

？「兄貴ー兄貴」

源「この声ってやっぱり真じゃねえか」

真「あつ源さん、龍驒さんお久しぶりです」

優「なんだ真を知っているのか」

龍驒「まあな」

真が「NO」を持っていて源に「ターンキルなんてされたいったら怒るだろうな。」

優「真どうしたんだよ、こんな場所です？」

真「まあちよといろいろありまして」

そんな話をしていると美咲が

美咲「まだなのもう待ちきれないんだけど」

龍驒「どうするんだよ」

優「奥の手だ、龍驒今から俺の言うとうり言え」

龍驒「分かった」

優「ごによごによ」

龍驒「そんなこといえるか」

優「しょうがないだろ」

龍驒「うっう」

俺はしぶしぶ言うことにした。

龍驒「美咲きてくれ」

美咲「んっん。何？」

龍驒「今から行く所は危険な場所なんだお前を危険なめに会わせたくない。俺はお前のことを大事に思っているんだ、だから今日は勘弁してくれ」

美咲「分かった今日は止めとく」というと美咲は俺にハグしてきた。俺の心拍数は急上昇した。

美咲「ありがとう。また明日ね」

という俺から離れていき手を振っていった。

源「よつかたな。ハグされて」

龍驒「あぶなっかた、皆がいなかったら理性がとんでた」

優「とりあえずいかないか、真ちよつと待っててな」

真「空想世界で頑張ってデュエルしてね」

龍驒「おう任せとけ」

優「って何で知ってるんだ」

源「いくぞ優」

優「おう」

――空想世界――

龍驒「やっとついた早速だけど今回は、別れて・NO・を集めよう」

優「そうだな」

源「じゃあとで」

そういうと俺たちは別れていった。

龍驒「今回は誰とデュエルしようかな」

？「あいてを探してるなら俺とデュエルしないか」

龍驒「いいけど別にそれじゃあ早速やろう」

？「それでは自己紹介から俺は、村田 瞬だよろしく」

龍驒「俺は」

瞬「桂木 龍驒でしょ知ってますよ有名人だから」

龍驒「話が早いそれじゃあ始めようか」

瞬「はい」

龍驒・瞬「決闘 デュエル」

その瞬間力チャという音がした。

龍驒「この音ってまた」

瞬「また、だまされたんですねえ。バカな人です」

龍驒「またこのゲームかよ。だが俺が勝てば誰も失わない」

瞬「さあはじめようか闇のデュエルを」

## 第22話 決闘前（後書き）

またも始まった、死のデュエル龍驒は勝つことが出来るのか。

## 第22話 機械の・NO・

龍驒・瞬「決闘 デュエル」

その瞬間力チャという音がした。

龍驒「この音ってまた」

瞬「また、だまされたんですね。バカな人です」

龍驒「またこのゲームかよ。だが俺が勝てば誰も失わない」

瞬「さあはじめようか闇のデュエルを」

龍驒「俺の先攻ドロ」

モンスターをセット、カードを1枚伏せてターンエンド」

瞬「俺のターンドロ」

メカブースターを召喚 メカブースターの効果発動 デッキから同名モンスター1体を特殊召喚する。現れる、メカブースター。

バトルフェイズ メカブースターでセットモンスターを攻撃」

メカブースター 1400VS十二星座バルゴ 1000

龍驒「十二星座 バルゴの効果発動 デッキから十二星座 アクエリヌスを手札に加える」

瞬「2体めのメカブースターでダイレクトアタック」

メカブースター 1400VS龍驒 4000

龍驒ライフ4000 2600

瞬「カードを1枚伏せてターンエンド」

龍驒ライフ 2600 手札5

場伏せカード1枚

瞬ライフ 4000 手札4

場メカブースター2体 伏せカード1枚

龍驒「俺のターンドロ」

俺は十二星座 アクエリヌスを召喚 効果発動 手札の光属性レベル3のモンスターを1体特殊召喚できる。現れる 十二星座ピスケスさらに十二星座 ピスケスの効果発動 効果により自分フィールド上の光属性モンスターとこのカードのレベルを1〜5に変更できる。効果でピスケスとアクエリヌスのレベルを5に変更。いくぜレベル5になった十二星座 ピスケスと十二星座 アクエリヌスをオーバーレイ 2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築 エクシーズ召喚 現れるNO・-13 ジャッジメントルーラー」

瞬「きやがったか、-NO・そのカードは俺が頂いてくぜ」

龍驒「うるせえ俺が負ける訳ないだろ。バトルフェイズ ジャッジメントルーラーでメカブースターを攻撃」

NO・-13 ジャッジメントルーラー 2600VSメカブースター 1400

瞬ライフ4000 2800

龍驒「カードを1枚伏せてターンエンド」

瞬「やってくれたな、俺のターンドロ」

手札から魔法カードメカ工場 効果により墓地の機械族レベル4のモンスターを特殊召喚する。現れる メカブースター、さらにマシンフォーを召喚 いくぜ」

龍驒「4三体のエクシーズモンスター」

瞬「レベル4のマシンフォーとメカブースター2体をオーバーレイ 3体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築 エクシーズ召喚 現れるNO・-42 メカニックオーバーデーモン」

龍驒「ついに来たか、あいつの-NO・」

第22話 機械の・NO・(後書き)

NO・-42 メカニックオーバーデーモンー体どんな効果なんで  
しょうねえ

次回もお楽しみに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2183z/>

---

遊戯王XDE

2011年12月26日11時45分発行